

# 令和5年度温州みかん果実の病虫害発生状況調査結果

長崎県農林技術開発センター  
環境研究部門 病虫害発生予察室  
(長崎県病虫害防除所)

## 1 調査の目的

温州みかんの収穫果実の病虫害被害状況を調査し、当年の病虫害発生状況を的確に把握することで、改善技術作成や防除指導の参考にする。

## 2 調査概要

### (1) 対象産地

諫早市(多良見)、西海市、大村市、雲仙市(瑞穂)、佐世保市

### (2) 対象農家

各産地の防除暦に準じた防除を行っている生産者1地区3名を選定

### (3) 調査対象品種

各産地の主要な品種(早生および普通温州相当:原口早生、宮川早生、させぼ温州など)

### (4) 調査時期

令和5年11月21~12月6日(うち5日間)

### (5) 調査項目

そうか病、かいよう病、黒点病(前期型、後期型)、灰色かび病、すす病、ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、訪花性害虫、チャノキイロアザミウマ(果梗部、果頂部)、ハナアザミウマ類、サビダニ、ホコリダニ、ミカンハダニ、カメムシ類、風ずれ、その他

### (6) 調査方法

1生産者あたり200個の果実を任意に抽出して病虫害の被害状況を肉眼により観察した。ただし、調査対象は家庭選果前の果実とした。調査は被害程度別に行い、調査項目ごとに被害果率、被害度を算出した。

## 3 調査結果及び考察

### (1) かいよう病

地点により差があるものの、平年より発生が多かった。前年の発生が多く伝染源となる越冬菌が多い状態であったと推定され、主要な感染時期の強風雨により発病葉からの感染が助長されたためと考えられた。

次作での初期感染の予防のため、せん定作業時の罹病枝の除去に努める。

### (2) そうか病

今回の調査では被害果の発生を確認できなかったものの、春季~収穫前までの圃場における調査では、葉、果実ともに平年並の発生は見られたので、越冬菌による発芽期からの感染に注意し、初期感染の予防を徹底する必要がある。

### (3) 黒点病

前期型病斑は平年に比べ多く、後期型病斑は平年並の発生であった。総合的には平年並であったと

考えられる、このような様相となった要因は、梅雨期が長く続き、降水量は平年並であったものの、曇天の日が多く、降雨が全くなかった日が少なく、日照時間も少ない状況で、実施すべき薬剤散布が十分にできなかった園地があったと考えられた。

(4) 灰色かび病

平年に比べ多い発生であった。本年は着花量が多かったため落弁した花卉の幼果への付着も多く、5月上旬、5月下旬～6月上旬に曇天が続き、降水量も平年より多かったため、防除のタイミングが難しかったことが要因として考えられた。

(5) すず病

平年並の発生であった。

(6) チャノキイロアザミウマ

果梗部の被害は平年に比べやや少なく、果頂部の被害は平年並の発生であった。

(7) ミカンハダニ

地点による差が大きいものの、平年に比べやや多い被害であった。要因として梅雨明け以降、高温・乾燥傾向の気象で推移したため、増殖が助長されたと考えられた。

(8) カイガラムシ類（アカマルカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ、ヤノネカイガラムシ）

各種とも平年並からやや少ない発生であった。

(9) ハナアザミウマ類

押しなべて見ると平年並の発生であったが、一部地域での発生が多かった。同時防除されるカメムシ類の発生が新世代成虫の発生が多い地域もあったため、このような地域では、比較的防除圧が高かったため発生が少なかったと考えられる。

(10) 訪花性害虫

平年並の発生であった。

(11) サビダニ

平年よりやや多い発生であった。梅雨明け以降、高温・乾燥傾向の気象で推移したため、増殖が助長されたと考えられた。

(12) カメムシ類

トラップや圃場調査での発生は、新世代成虫の発生は地域により差があるものの平年並～多い発生であり、今回の調査でも、被害果の発生は平年よりやや多かった。

(13) 風ずれ

平年よりやや少ない発生であったが、一部で多い地点が見られた。

(14) 葉害

一部の地点で発生が見られ、平年より多かった。症状から銅剤によるものと見られ、夏季の高温により発生が助長されたと考えられる。

(15) その他

主な症状として、日焼け、生傷（押し傷、刺し傷）が見られ、平年並の発生であった。

表 令和5年度温州みかん果実の病害虫発生状況調査結果

地区名	調査項目	かいよう病	そうか病	黒点病		灰色かび病	すす病	チャノキイロアザミウマ		ハナアザミウマ類	ミカンハダニ	アカマルカイガラムシ	ナシマルカイガラムシ	ヤノネカイガラムシ	訪花性害虫	サビダニ	ホコリダニ	カメムシ類	風ずれ	葉害	その他
				前期	後期			果梗	果頂												
諫早市 (多良見)	被害果率(%)	6.3	0	40.7	58.7	57.3	0.2	3.3	3.5	4.3	13.0	2.3	3.3	0	1.2	0.8	0	0	9.5	3.7	0.2
	被害度	1.4	0	8.1	11.3	12.0	0.02	0.8	0.6	0.7	2.3	0.5	0.7	0	0.2	0.1	0	0	1.5	0.8	0.02
西海市 (西彼)	被害果率(%)	3.8	0	15.2	20.2	23.7	0	1.8	3.5	0	0.5	0.3	0	0	0.7	0.8	0	0	30.3	0	2.8
	被害度	1.0	0	3.2	4.5	3.8	0	0.3	0.5	0	0.1	0.05	0	0	0.2	0.2	0	0	5.8	0	0.7
大村市	被害果率(%)	0	0	32.3	7.0	19.2	0	0.7	3.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17.5	0	0
	被害度	0	0	10.2	1.1	3.5	0	0.1	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.5	0	0
雲仙市 (瑞穂)	被害果率(%)	0.5	0	15.0	20.0	20.5	0	1.5	3.0	0	0	0.5	0	0	0.2	0	0.8	0.8	18.2	1.8	0
	被害度	0.1	0	2.5	3.6	3.1	0	0.2	0.4	0	0	0.1	0	0	0.0	0	0.1	0.1	2.7	0.3	0
佐世保市	被害果率(%)	0	0	8.8	22.5	32.2	0	1.2	2.7	0.3	0	0.5	0	0	0.5	0.2	0	1.7	52.0	0	1.2
	被害度	0	0	1.6	4.6	5.8	0	0.2	0.4	0.05	0	0.1	0	0	0.1	0.0	0	0.3	10.0	0	0.2
県平均	被害果率(%)	2.1	0	22.4	25.7	30.6	0.1	1.7	3.2	0.9	2.7	0.7	0.7	0	0.5	0.4	0.2	1	25.5	1.1	0.8
	被害度	0.5	0	5.1	5.0	5.6	0.01	0.3	0.5	0.1	0.5	0.1	0.1	0	0.09	0.07	0.02	0.1	4.5	0.2	0.2
平年値 (H25~R4 平均)	被害果率(%)	0.6	0.1	11.9	26.6	13.5	0.2	4.6	3.3	0.8	1.6	1.6	0.5	0	0.7	0.1	<b>0.3</b>	0.04	39.9	0.01	1.4
	被害度	0.1	0.03	2.8	6.1	2.5	0.04	0.8	0.6	0.1	0.4	0.3	0.1	0	0.1	0.01	<b>0.05</b>	0.01	7.9	0.003	0.3

A(4):被害が著しく目立つもの B(3):被害が目立つもの C(2):被害がやや多く見られるもの D(1):被害が散見されるもの

$$*被害度 = \frac{7A+5B+3C+D}{7 \times \text{調査葉(果)数}} \times 100$$

※ホコリダニの平年値は、R3年調査より項目設定したため、R3、R4の平均値を記載  
 ※※その他の項は、日焼け、刺し傷、押し傷などが該当